

令和3年度(2021年度)陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2021年5月18日～19日、6月2日～3日の2回、それぞれ陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕個体数は、5月は28,655個体、6月は6,407個体と、5月に多く採捕されました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。マダラ稚魚の分布密度はSt.5で346個体/1,000m<sup>2</sup>と最も高く、2020年の最高値であったSt.5の11個体/1,000m<sup>2</sup>を大きく上回りました。この他、これまで5月の調査で採捕されることがなかったSt.3においても134個体採捕され、全調査地点で分布が確認されました。また、地点別標準体長別の採捕個体数を表1に示しました。標準体長のピークはSt.1の48mmが最大でしたが、これは前年にSt.1で記録した56mmを下回っていました。図2に分布密度の平均値と最高値の経年変化を示しました。2021年5月の平均分布密度は5年間で最も高い値、分布密度の最高値は5年間で3番目に高い値となっており、近年の中では豊度が高かった可能性があります。

2020年漁期(9月～翌年8月)の陸奥湾のマダラ漁獲量は前年漁期に続き1,700トンを超えました。前年は稚魚豊度が低かったものの、今年は稚魚の生き残りが良く、高い稚魚豊度になったと考えられました。来年以降も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

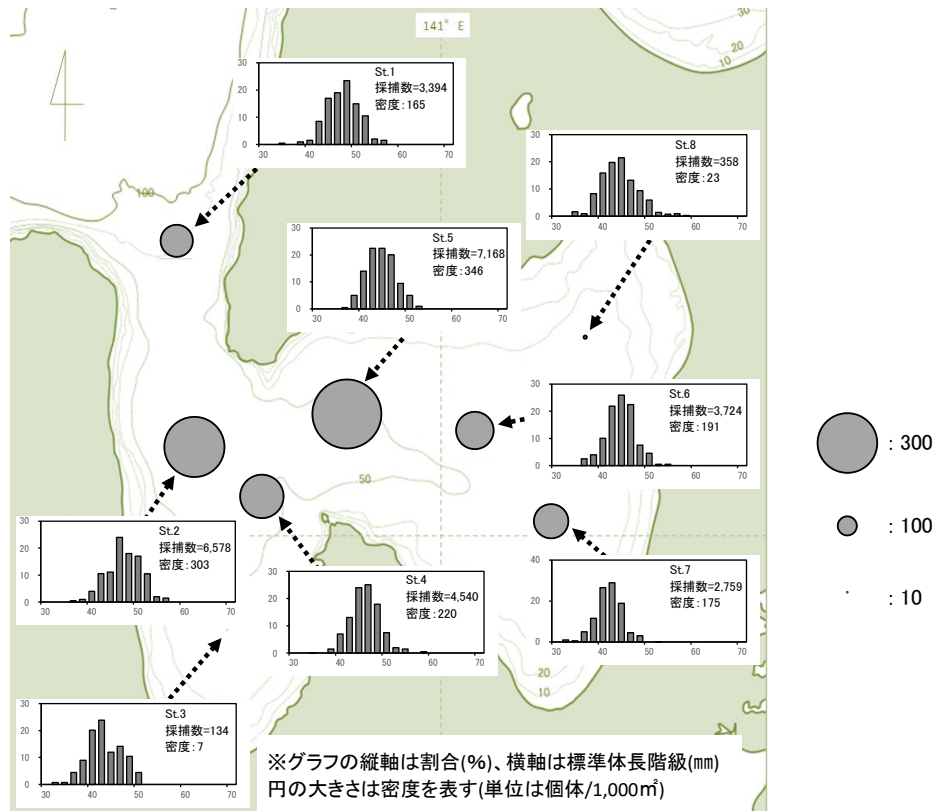


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と標準体長組成結果(2021年5月)

(試験船青鵬丸によるオッターロール)

表1 地点別標準体長別採捕個体数(マダラ)

単位：個体

標準体長 階級	St. 1 N=3,394	St. 2 N=6,578	St. 3 N=134	St. 4 N=4,540	St. 5 N=7,168	St. 6 N=3,724	St. 7 N=2,759	St. 8 N=358
20								
22								
24								
26								
28								
30								
32			1				27	
34	17		1	1			14	6
36		33	6		36	93	137	3
38	34	66	12	68	359	148	318	30
40	52	262	27	318	1,003	375	733	57
42	288	692	32	592	1,612	816	799	71
44	577	730	16	1,091	1,612	967	521	77
46	644	1,577	19	1,136	1,436	835	126	47
48	798	1,182	14	815	681	282	82	34
50	509	1,119	6	340	358	169		21
52	357	688		90	71	19	1	5
54	67	131		68		18		3
56	52	98						3
58				23				1
60								
62								
64								
66								
68								
70								
72								
74								
計	3,394	6,578	134	4,540	7,168	3,724	2,759	358

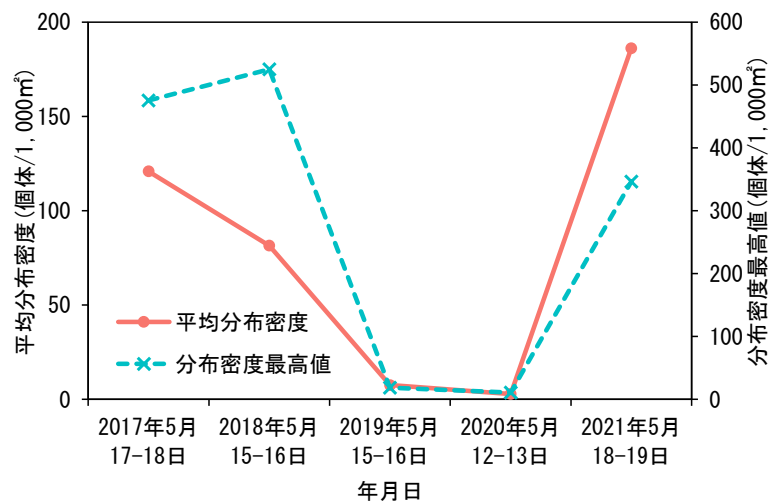


図2 陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化 (2017年~2021年)